

令和元年6月28日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2018

課題番号：25460839

研究課題名(和文) 病院患者図書館を中心とした次世代型患者情報サービスの研究

研究課題名(英文) Research on patient information service at hospital patient library

研究代表者

前田 稔(MAEDA, Minoru)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：20376841

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：病院患者図書館の調査を継続的に行う一方でタブレットパソコンやスマートフォン時代の影響に関する論点提示を目的に、量的・質的な側面の現地調査や動向調査を行った。

その結果、(1)ロサンゼルスでは医療従事者向けの図書館と機能や人的資源を兼ねており、小児病院ではプレパレーションやディストラクションに図書が有効活用されていた。(2)日本では病院患者図書館の浸透が進んでいる一方、質的な変化が続いている。(3)医療情報の入手源となる日本のアプリが多くはなく、学習アプリはゲーム的な海外製が中心であった。(4)図書や紙の清潔度についてATP拭き取り検査をした結果、表面の残存有機物が極めて少ない側面が判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内では、病院患者図書館への注目が高まっており、医療従事者向けの雑誌が減少する中で病院の司書職を中心に研究が進展しており、また、看護師の役割の拡大、病院ボランティアの充実化、小児医療の高度化、病院経営におけるQOLの浸透の側面からも、病院患者図書館研究の一助としての学術的意義がある。

患者の癒しや、待ち時間における主観的時間の軽減、人生を変える図書との出会い、居心地の良い空間の提供など、「読書センター」として患者の満足度向上に寄与する社会的意義が存在している。一方、医学書や健康関連図書により患者の学習環境を充実化させる「学習情報センター」の観点では、研究上の工夫の余地がまだ多く残されている。

研究成果の概要(英文)：I continued to survey the hospital patient library. The purpose of the research is to clarify the influence of the tablet computer and smartphone age. I conducted field surveys and trend surveys on quantitative and qualitative aspects.

As a result, (1) in the city of Los Angeles, it was combined with a library for healthcare workers and functions and human resources. In children's hospitals, books were effectively used for preparation and distraction. (2) In Japan, hospital patient libraries are spreading to society. Hospital patient libraries are changing qualitatively. (3) There were few Japanese applications that were sources of medical information. Most of the apps for learning were games. The app was not made in Japan but mainly made in overseas. (4) In order to study the cleanliness of books and papers, I did an ATP wipe test. As a result, it was found that residual organic matter on the surface was extremely low.

研究分野：図書館学

キーワード：病院患者図書館 QOL 医療情報 健康情報 タブレットパソコン インフォームドコンセント プレパレーション ディストラクション

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

病院患者図書館とは、院内情報提供サービスとして、医学や疾患の本や雑誌をはじめ、一般の書籍・新聞、これら検索の相談、また、製薬会社から提供されている薬や病気の冊子、検索の為にインターネット端末などを揃えている場のことをいう。その起源は中世ヨーロッパで、薬の代わりに図書が処方されており、19世紀にはフランスで院内貸出も始まっていた。先進諸国の病院では、病院患者図書館が既に普及段階であるが、日本は立ち遅れている状況である。

しかし近年、日本における患者の権利をめぐる状況の変化は、病院関係者の認識に大きな影響を与え、患者の自助努力の一助としてインフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンとしての図書提供が注目され、病院患者図書館の設置数が年々増えつつある。「読書療法」という新たな診療も行われ始め、書物が患者の心のケアに役立つことがわかってきた。また、社会の高齢化に伴い、今後も医療費の増大が危惧され、患者の意識改革、情報の共有、医師と患者の信頼関係の確立等による治療効果の向上は、医療訴訟の減少および医療費減少に結び付くことも提唱されている。

これを念頭に置き、日本の病院患者図書館の現状を把握する為アンケート調査を実施してきた。研究代表者による2007年度の全国調査では175施設にすでに設置され、191病院が設置検討中という結果が得られている。書物も多種多様化し、一般書から娯楽書、医学専門書に及んでいた。その後継続的に行っている実地調査では、東京大学や慶應義塾大学、東京医科歯科大学をはじめとする都市部の数多くの病院で病院患者図書館が開設され、また地方でも新設病院の多くで設置され、信州大学医学部附属病院のように公立図書館分館の院内設置等の先進的な取り組みがある。

1 近隣に公立図書館はありますか	徒歩5分以内	徒歩20分以内	なし	不明						
	331	961	1071	50						
2 公立図書館と病院との連携はありますか	連携あり	連携なし	不明							
	83	2328	22							
3 院内に患者向けの本棚はありますか	入院用あり	通院用あり	なし	不明						
	1091	1431	686	19						
4 患者向けの本棚がある場合の本の種類	医学資料	闘病記	一般書	漫画	雑誌	パンフレット	健康ガイド	新聞		
	388	173	1164	869	1342	917	745	23		
	本棚なし	不明								
	724	16								
5 院内の独立した患者向け図書室	あり	なし	設置検討中	不明						
	175	995	191	344						
6 図書室の担当者はいますか	図書館司書	看護師	他職員	ボランティア	いない	不明				
	39	13	71	62	30	0				
7 図書室に設置されている本の種類	医学資料	闘病記	一般書	漫画	雑誌	パンフレット	健康ガイド	新聞	不明	
	123	80	141	75	84	64	73	26	1	
8 利用対象と方法	入院患者	通院患者	職員	一般人	貸出	病棟へ配本	不明	その他		
	158	119	91	56	79	18	1	6		

### 2. 研究の目的

全国的な調査を継続的に行う一方で電子書籍時代を迎え、読書形態の多様化が進みつつあるなかで、病院はどのように変化していくかについて、本研究では、量的・質的な側面についても、さらなる現地調査や電子書籍時代の先進的な動向も調査を続けていくことで、医療、社会的貢献の為に日本の病院患者図書館の論点を明らかにしていく。

### 3. 研究の方法

#### (1) アメリカの状況との比較

アメリカにおける病院患者図書館の現状について調査を行った。特に、子供を対象とする病院について、重点的に調査をした。

#### (2) 日本における病院患者図書館の量的・質的分析

これまでの全国病院患者図書館調査を通じた、病院患者図書館の量的・質的な側面について分析を行った。

#### (3) タブレットパソコンやスマートフォンアプリについての現状調査

タブレットパソコンやスマートフォンアプリについて、病院患者図書館で提供することが有益な情報を調査した。

#### (4) 紙と感染についての量的な調査

計測器を用いて、図書が感染源になる可能性の調査を行い、病院患者図書館が感染源となるリスクについて検討を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) アメリカの状況との比較

ロサンゼルスにおける病院患者図書館を網羅的に調査した結果、日本における病院機能と比べ、アメリカではクリニックとホスピタルの役割分担が行われており、ホスピタルではしばしば患者図書館が医療従事者向けの図書館と機能や人的資源を兼ねていることがわかった。しかしながら、病室内でのWiFi整備が一般的となっており、また、医学専門誌の電子化が進む中、司書職の役割が相対的に減少していくことの危惧が存在していた。一方で、小児病院については、チャイルド・ライフ・スペシャリストの雇用が拡大中であり、プレパレーションやディストラク

ションの一環として図書が有効に使用されていることが判明した。

(2) 日本における病院患者図書館の量的・質的分析

日本における病院患者図書館の浸透が進んでいる一方、日本病院患者図書館協会が終了するなど、大きな変化が続いている。

(3) タブレットパソコンやスマートフォンアプリについての現状調査

アメリカではタブレットパソコンやスマートフォンのアプリが医療情報の入手源となっている場合が見受けられ、病院患者図書館にタブレットパソコンが設置されているなど、日常的な存在となっている面があった。一方で、日本においては、そもそも医療情報の入手源となるアプリがそれほど多くはなかった。また、健康情報についての学習源となるアプリについては、海外のものがそのまま日本で提供されている傾向があるほか、人体や病気とかかわるゲームとして存在している場面が中心となっていた。

(4) 紙と感染についての量的な調査

紙が感染源となるか否かの先行研究が見受けられなかった。ATP 拭き取り検査を実施した結果、紙は水分を吸収するため、表面における残存有機物が存在し続けることが難しいという側面があることが判明した。しかしながら、ATP 拭き取り検査については、清潔度についての一面的な検査方法であることから、さらに精査していく必要がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

前田稔「小児医療における図書を通じた学びと安らぎ：チャイルド・ライフ・スペシャリストとプレパレーション」『東京学芸大学紀要総合教育科学系 68』東京学芸大学, 査読無, pp. 101-108, 2017 年, <http://hdl.handle.net/2309/146939>.

Minoru Maeda “The Reading Environment and Study Support in Hospitals: On the Results of a Survey of Patient Libraries in Japan ” 『東京学芸大学紀要総合教育科学系 67』東京学芸大学, 査読無, pp.56-64, 2016 年, <http://hdl.handle.net/2309/144589>.

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「病院患者図書館研究@東京学芸大学」<https://sites.google.com/site/kanjalibrary/>

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：菊池 佑

ローマ字氏名：KIKUCHI, Yu

研究協力者氏名：渡辺 基史

ローマ字氏名：WATANABE, Motofumi

研究協力者氏名：前田 まゆみ

ローマ字氏名：MAEDA, Mayumi

研究協力者氏名：内田 真一

ローマ字氏名：UCHIDA, Shinichi

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。